

H 2 5 年 6 月 吉 日

関係各位

事務局長退任の御挨拶

N P O 法人びわ湖トラスト

理事 高木 順

再生エネルギーと調和を図りながら琵琶湖の水浄化を推進する夢を抱き、発足当初から参画してきました。H 2 2 年夏に事務局長の打診があり、大津に拠点を移し、実業経験のある方を増やし、目に見える琵琶湖保全を進めるべく、まずは2年間として、H 2 2 年 1 0 月より事務局長を拝命しました。就任前後は前事務局長が不在で引き継ぎ事項もほとんどなく、出来ることからコツコツと、各理事や職員の叱咤激励はじめ、関係各位の多大なご協力とご支援を頂き、お陰で何とか世間に認知されるN P O に成長してきた手応えを感じています。一方私的な開発関連業務が多忙になるとともに、当初からの思いである湖水浄化担当理事に集中したく、またさらなる発展を期して熊谷新事務局長に円満交代出来ることになりました。そこで在任期間の2年半（3期分）を温故知新のためにまとめてみました。

「温故」

①各会員の活動重心点である大津に拠点事務所が移りました。

中井理事にご高配いただき、琵琶湖汽船内の願ってもない拠点を中心に活動が活性化できました。

②会計年度を10月始まりから、4月始まりとし、他の法人と同期しやすくなりました。

H 2 2 年 1 0 月からH 2 3 年 3 月の6ヶ月の年度を設け調整した。春・夏・秋に活動し、冬に次年度の資金準備を行う、リズムが定着できました。

③実業経験のある理事を増強し、調査のみに終わるだけでなく見える琵琶湖保全活動をはじめました。

理事は11名から20名に増強され、湖底調査、ゴミ回収調査事業だけでなく、親子環境体験学習、水源の森の保全、ナノバブルによる湖水浄化の事業を立ち上げるとともに、横串活動として会員の集い、HPの強化、講演会活動（写生会含む）が推進されました。

④担当理事を決め、組織的な活動を推進体制となった。

月1回の理事会によるPLAN-DO-CHECKによる運営で上記各活動をすすめ、氏家副理事長により会計が透明化・体系化され、認定N P O に準拠できる体制に近づいてきました。

⑤会員数増強し会費による管理費と助成金による活動の定着

特に法人会員が増強され、会費収入は約3倍となり管理費用分が確保でき、実践する各事業は助成金見合いで推進する体制になりました。

「知新」

①N P O といえども元になる自前の収益事業を確保し、助成金頼みから脱却することを願います。

②当N P O の推進している各活動はかなり理解され浸透してきており、さらに共鳴して参加願える方を増やして活動を強化し、その支援者にも納得頂けるようになれば幸いです。

びわ湖の保全活動という大きなテーマは産・官・学・民の各々単独ではなかなか進みにくいが、N P O ならではの活動として、多士済済な会員の熱意と知恵を結集し新事務局長の舵取りよく、さらに当N P O のブランドが向上する事を期待しています。最後になりましたが、西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部、平和堂財団、未来ファンド淡海、ライオンズクラブ各位や当N P O 会員・役員・職員及び関係者の方に厚く御礼と感謝いたします。また今後ともよろしく御願いたします。